

検証後の集計結果（公立大学法人静岡文化芸術大学）

資料 1

		評価対象 項目数	評価委員会検証					法人自己評価				
			SS 計画を大 幅に上回 って実施	S 計画を 上回って 実施	A 計画を順調に 実施	B 計画を十分 には実施し ていない	C 業務の 大幅な見直 し等が必要	SS 計画を大 幅に上回 って実施	S 計画を 上回って 実施	A 計画を順調に 実施	B 計画を十分 には実施し ていない	C 業務の 大幅な見直 し等が必要
教育 研究 等	1 教育	17	0	0	14	3	0	0	1	16	0	0
	2 研究	4	0	0	2	2	0	0	0	3	1	0
	3 地域貢献	6	0	0	4	2	0	0	0	6	0	0
	4 グローバル化	3	0	1	1	1	0	0	1	2	0	0
	合 計	30	0	1 (3.3%)	21 (70.0%)	8 (26.7%)	0	0	2 (6.7%)	27 (90.0%)	1 (3.3%)	0
法人 経営	1 業務運営の改善	4	0	0	4	0	0	0	0	4	0	0
	2 財務内容の改善	3	0	0	3	0	0	0	0	3	0	0
	3 施設・設備の整備・活用等	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
	合 計	8	0	0	8 (100%)	0	0	0	0	8 (100%)	0	0
自己 点検	1 評価の活用	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
	2 情報公開等の充実	2	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0
	合 計	3	0	0	3 (100%)	0	0	0	0	3 (100%)	0	0
そ の 他	1 安全管理	4	0	0	3	1	0	0	0	4	0	0
	2 社会的責任	2	0	0	1	1	0	0	0	2	0	0
	合 計	6	0	0	4 (66.7%)	2 (33.3%)	0	0	0	6 (100%)	0	0
総 合 計		47	0	1 (2.1%)	36 (76.6%)	10 (21.3%)	0	0	2 (4.3%)	44 (93.6%)	1 (2.1%)	0

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目（公立大学法人静岡文化芸術大学 第3期中期目標期間見込み評価）

評価を変更した項目（12項目）

中期計画	計画の実施状況等	自己 評価	検証	特記事項指摘 (意見・指摘)																																																											
・大学院においては、学内進学者を確保するとともに、社会人や外国人留学生の受入れを促進する具体的な取組を実施し、入学定員を充足させる。【No.4】 〈評価指標〉 大学院における入学定員の充足状況：100%／毎年 ※困難指標 <table><tr><th>年度</th><th>目標値</th><th>実績値</th><th>達成状況</th></tr><tr><td>R5入試</td><td>100%</td><td>100%</td><td>○ (◎)</td></tr><tr><td>R6入試</td><td>100%</td><td>80%</td><td>× (●)</td></tr><tr><td>R7入試</td><td>100%</td><td>80%</td><td>× (●)</td></tr><tr><td>R8入試</td><td>100%</td><td>60%</td><td>× (●)</td></tr></table>	年度	目標値	実績値	達成状況	R5入試	100%	100%	○ (◎)	R6入試	100%	80%	× (●)	R7入試	100%	80%	× (●)	R8入試	100%	60%	× (●)	・学内進学者確保のため、本学学生向けの大学院進学説明会を各研究科で毎年実施した。 ・大学院文化政策研究科において、「国際協力経験者特別選抜制度」を新設し、R6(2024)年度入試より開始した。R7(2025)年度入試で1名受験があった。 ・R8(2026)年度入試では、大学院両研究科において在職中の中堅人材を対象とした「キャリアアップ制度」を見直し、36ヶ月以上の社会人経験を有するすべての人を対象に「社会人特別選抜」を導入するとともに、文化政策研究科の「国際協力経験者特別選抜」においても内容を見直し、専門科目の論述試験や英語試験を一部免除するなど、対象者の実情にあった試験科目の設定をした。 ・大学院文化政策研究科の事前相談から出願までの流れを見直し、R9(2027)年度入試より、一般選抜の対象者には事前相談の実施を必須から推奨へと変更することで、出願の機会を拡大する。	A	B	文化政策研究科では、定員未充足が続いている。また、令和7年度入試まで定員を超過していたデザイン研究科においても、令和8年度入試では定員を下回った。計画を順調に実施しているとまではいえないため、左記の評価とする。前期評価結果でも大学院の定数管理について意見を付されているところであり、法人においては、早急に実効性のある取組を実施されたい。 ・大学院進学説明会実施 (学内対象…毎年1回、学外対象…オープンキャンパス) ・社会人特別選抜については、出願までは至らなかったが、3名から問い合わせがあった。 数値目標は達成できなかったが、より多くの志願者確保と、受験資格者の拡大にむけ制度改革を重ねているため自己評価Aとした。 ＜大学院入学者数＞ <table><tr><th>研究科</th><th></th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th><th>R8</th></tr><tr><td rowspan="2">文化政策</td><td>入学者 (人) (10)</td><td>9</td><td>5</td><td>4</td><td>5</td></tr><tr><td>充足率</td><td>90%</td><td>50%</td><td>40%</td><td>50%</td></tr><tr><td rowspan="2">デザイン</td><td>入学者 (人) (10)</td><td>11</td><td>11</td><td>12</td><td>7</td></tr><tr><td>充足率</td><td>110%</td><td>110%</td><td>120%</td><td>70%</td></tr><tr><td rowspan="2">計</td><td>入学者 (人) (20)</td><td>20</td><td>16</td><td>16</td><td>12</td></tr><tr><td>充足率</td><td>100%</td><td>80%</td><td>80%</td><td>60%</td></tr></table>	研究科		R5	R6	R7	R8	文化政策	入学者 (人) (10)	9	5	4	5	充足率	90%	50%	40%	50%	デザイン	入学者 (人) (10)	11	11	12	7	充足率	110%	110%	120%	70%	計	入学者 (人) (20)	20	16	16	12	充足率	100%	80%	80%	60%
年度	目標値	実績値	達成状況																																																												
R5入試	100%	100%	○ (◎)																																																												
R6入試	100%	80%	× (●)																																																												
R7入試	100%	80%	× (●)																																																												
R8入試	100%	60%	× (●)																																																												
研究科		R5	R6	R7	R8																																																										
文化政策	入学者 (人) (10)	9	5	4	5																																																										
	充足率	90%	50%	40%	50%																																																										
デザイン	入学者 (人) (10)	11	11	12	7																																																										
	充足率	110%	110%	120%	70%																																																										
計	入学者 (人) (20)	20	16	16	12																																																										
	充足率	100%	80%	80%	60%																																																										

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目（公立大学法人静岡文化芸術大学 第3期中期目標期間見込み評価）

中期計画	計画の実施状況等	自己 評価	検証	特記事項指摘 (意見・指摘)
○デザイン学部 ・自己の専攻する分野の知識を深めつつ、従来のデザイン分野の枠を超えた横断的な素養を身につけ、各自の志向に応じた多分野の知識を複合的に学ぶために、新たな科目「専門横断演習」を開講することで、現代の社会課題に対応しうる人材を育成する。【No.12-3】 〈評価指標〉 R7年度：専門横断演習について、授業計画及び評価方法をワーキンググループで検討する。 R8年度：専門横断演習について、ワーキンググループと担当教員でテーマを決定し、授業計画を策定する。 R9年度：専門横断演習の開講、授業成果の学内外への発表を通じて、授業到達目標を検証する。検証結果を踏まえ、演習内容を改善・充実させる。	・R4～R7年度は、社会情勢の変化や地域の要請に積極的に対応する人材育成を目指したカリキュラム改定作業を行い、R7年度開始の新カリキュラムでは、自己の専攻する分野の知識を深めつつ、従来のデザイン分野の枠を超えた横断的な素養を身につけ、各自の志向に応じた多分野の知識を複合的に学ぶことのできる新たな科目「専門横断演習」を開講することとした。R9年度からの開講に向け、授業計画及び評価方法についてワーキンググループで協議を行った。 ・R8年度には「専門横断演習」の担当教員が実施テーマを決定し、授業計画の策定を行う。R9年度には、「専門横断演習」を開講し、授業成果の学内外への発表を通じて、授業到達目標の検証を行う。	S	A	新科目「専門横断演習」の開講について、入念な準備を行ったことは評価できる。一方で、開講は令和9年度からであり、「他大学の模範となるような突出した効果・効用」までは確認できないことから、計画を順調に実施している段階であると判断し、左記の評価とする。 (自己評価Sの理由) 新科目「専門横断演習」の開講に向け、R7年度に「専門横断演習」ワーキンググループを4回(4月、7月、8月、3月)行い、種々の課題プログラムを案出し、その上でテーマの志向性およびシラバスのたたき案まで作成するなど、入念な準備を進めているため。

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目（公立大学法人静岡文化芸術大学 第3期中期目標期間見込み評価）

中期計画	計画の実施状況等	自己 評価	検証	特記事項指摘 (意見・指摘)																				
・ 学生生活実態調査等によって学生の諸問題を把握し、心身両面において必要な支援を行う。【No.33】 〈評価指標〉 学生生活調査の回答率：60%以上/毎年 (R 4 ： 学生生活実態調査 R 5 ～： 学生アンケート) <table><tr><th>年度</th><th>目標値</th><th>実績値</th><th>達成状況</th></tr><tr><td>R4</td><td>－</td><td>47.1% (参考値)</td><td>－</td></tr><tr><td>R5</td><td>－</td><td>39.7% (参考値)</td><td>－</td></tr><tr><td>R6</td><td>－</td><td>27.8% (参考値)</td><td>－</td></tr><tr><td>R7</td><td>60%</td><td>25.8%</td><td>× (●)</td></tr></table>	年度	目標値	実績値	達成状況	R4	－	47.1% (参考値)	－	R5	－	39.7% (参考値)	－	R6	－	27.8% (参考値)	－	R7	60%	25.8%	× (●)	・ 3 年毎に実施していた「学生生活実態調査」を、R5 年度から「学生アンケート」と名称を変更し、Web 形式での毎年実施とした。R7 年度の学部 1 年生の回答率は 65.1 % と高水準であったものの、全体では 25.8 % に留まった。 ・ 学生生活に係る様々な問題を把握するための方法として、相談フォーム、メール、電話、対面窓口など多様な相談手段を整備し、「保健室」「学生相談室」「教務・学生室」の三部門が連携することで、日常的な悩みから専門的な課題まで、心身両面にわたる包括的な学生支援体制を構築している。 ・ R8 年度からは、本学独自の「学生アンケート」に加え、外部機関が実施する学生生活調査（大学生協の学調、文部科学省「全国学生調査」等）の結果も参考としながら、学生生活の諸問題に対応していく。	A	B	学生生活に係る様々な問題を把握するため、相談窓口の多様化や学内連携の強化により学生支援体制を整備していることは評価できる。一方で、「学生生活調査（R 5：学生アンケート）」の令和 7 年度の回答率は 25.8 % と設定された目標値（60 % 以上）を大幅に下回っており、計画を順調に実施しているとは認められないため左記の評価とする。回答した学生と回答しなかった学生との間で、大学生活等に対する意識や評価に違いがある可能性もある。学生の状況等をよりの確に把握するため、要因を分析し、回答率向上に向け改善を図られたい。 ・ 外部機関が実施する学生生活調査と区別するため、R5 年度より名称を「学生アンケート」に変更した。 (学期ごとに実施している「授業アンケート」と同様の名称を使用)
年度	目標値	実績値	達成状況																					
R4	－	47.1% (参考値)	－																					
R5	－	39.7% (参考値)	－																					
R6	－	27.8% (参考値)	－																					
R7	60%	25.8%	× (●)																					

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目（公立大学法人静岡文化芸術大学 第3期中期目標期間見込み評価）

中期計画	計画の実施状況等	自己 評価	検証	特記事項指摘 (意見・指摘)																																																												
・地域の企業の魅力を学生に向けて発信し、理解促進を図る。【No.41】 〈数値目標〉 大学主催の就職支援事業の参加率：45%以上／毎年【No.41-1】 就職率：100%／毎年【No.41-2】※困難指標 県内就職率：過去3年平均以上／毎年【No.41-3】 41-1 大学主催の就職支援事業の参加率 <table><tr><th>年度</th><th>目標値</th><th>実績値</th><th>達成状況</th></tr><tr><td>R4</td><td>45%</td><td>29.6%</td><td>× (●)</td></tr><tr><td>R5</td><td>45%</td><td>27.2%</td><td>× (●)</td></tr><tr><td>R6</td><td>45%</td><td>26.0%</td><td>× (●)</td></tr><tr><td>R7</td><td>45%</td><td>25.5%</td><td>× (●)</td></tr></table> 41-2 就職率（困難指標 ※90%以上100%未満でおおむね達成） <table><tr><th>年度</th><th>目標値</th><th>実績値</th><th>達成状況</th></tr><tr><td>R4</td><td>100%</td><td>96.3%</td><td>○ (○)</td></tr><tr><td>R5</td><td>100%</td><td>96.2%</td><td>○ (○)</td></tr><tr><td>R6</td><td>100%</td><td>97.8%</td><td>○ (○)</td></tr><tr><td>R7</td><td>100%</td><td>98.0%</td><td>○ (○)</td></tr></table> 41-3 県内就職率 <table><tr><th>年度</th><th>目標値</th><th>実績値</th><th>達成状況</th></tr><tr><td>R4</td><td>38.4%</td><td>35.9%</td><td>× (●)</td></tr><tr><td>R5</td><td>38.1%</td><td>33.7%</td><td>× (●)</td></tr><tr><td>R6</td><td>36.2%</td><td>34.1%</td><td>× (●)</td></tr><tr><td>R7</td><td>34.6%</td><td>38.3%</td><td>○ (○)</td></tr></table> 【41-1・大学主催の就職支援事業の参加率の算出方法】 3年生向けの「就職ガイダンス」（両学部対象で複数回実施するもの）について、集計時の「3年生の在籍者数」を基準として算出。 参加率＝各回出席者数の合計／（3年生の在籍者数×ガイダンス回数）	年度	目標値	実績値	達成状況	R4	45%	29.6%	× (●)	R5	45%	27.2%	× (●)	R6	45%	26.0%	× (●)	R7	45%	25.5%	× (●)	年度	目標値	実績値	達成状況	R4	100%	96.3%	○ (○)	R5	100%	96.2%	○ (○)	R6	100%	97.8%	○ (○)	R7	100%	98.0%	○ (○)	年度	目標値	実績値	達成状況	R4	38.4%	35.9%	× (●)	R5	38.1%	33.7%	× (●)	R6	36.2%	34.1%	× (●)	R7	34.6%	38.3%	○ (○)	・卒業生の就職実績がある地域企業を中心に、学生の志望度が高い企業を幅広い業種から招聘し、学内でインターンシップのマッチング会や個別企業説明会を開催した。 ・主に浜松商工会議所と協力し、地域企業を招いて業界研究セミナーを開催している。R6 年度からは新しい試みとして、浜松商工会議所・浜松市と連携し、浜松市の企業を招いた「就カフェ」（学生が気軽に参加できる企業説明会）を開催している（R6：1 回、R7：2 回）。 ・浜松市周辺の 6 大学が協力し、浜松市周辺の企業が参加する学生向けの合同企業説明会「浜松地域企業セミナー」を毎年開催した。 ・R7 年度は静岡県学生就職連絡協議会（学就連）会長校として、県のキャリア教育プログラムと連携した学生向けの就職情報ビデオの作成や、浜松地域企業セミナーへの学就連としての特別参加等のイベントを実施した。	A	B	就職率向上に向けた取組は評価できるが、大学主催の就職支援事業の参加率（41-1）は、4 年連続で未達成、かつ、県内就職率（41-3）も R4～R6 にかけて未達成であり、計画を順調に実施しているとは認められないため、左記の評価とする。 学生のニーズ等を十分に踏まえ、より多くの学生が参加できるような工夫・改善を図られるとともに、県内就職率向上にも寄与することを期待する。 ・就カフェでは「オープンスペースでの開催のため、気軽に参加できた」「今まで知らなかった市内の企業について知ることができた」等の声があった。 （説明会等の参加者数や参加企業数） ・インターンシップマッチング会 R4：参加者 398 名／23 社 R5：参加者 470 名／28 社 R6：参加者 420 名／32 社 R7：参加者 381 名／40 社 ・個別企業説明会 R4：参加者 202 名／39 社 R5：参加者 248 名／37 社 R6：参加者 155 名／45 社 R7：参加者 193 名／44 社 ・就カフェ R6：参加者 63 名／6 社 R7：第 1 回参加者 77 名／6 社 第 2 回参加者 67 名／6 社 ・浜松地域企業セミナー（本学学生参加者数） R4：17 名 R5：14 名 R6：9 名 R7：16 名
年度	目標値	実績値	達成状況																																																													
R4	45%	29.6%	× (●)																																																													
R5	45%	27.2%	× (●)																																																													
R6	45%	26.0%	× (●)																																																													
R7	45%	25.5%	× (●)																																																													
年度	目標値	実績値	達成状況																																																													
R4	100%	96.3%	○ (○)																																																													
R5	100%	96.2%	○ (○)																																																													
R6	100%	97.8%	○ (○)																																																													
R7	100%	98.0%	○ (○)																																																													
年度	目標値	実績値	達成状況																																																													
R4	38.4%	35.9%	× (●)																																																													
R5	38.1%	33.7%	× (●)																																																													
R6	36.2%	34.1%	× (●)																																																													
R7	34.6%	38.3%	○ (○)																																																													

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目（公立大学法人静岡文化芸術大学 第3期中期目標期間見込み評価）

中期計画	計画の実施状況等	自己 評価	検証	特記事項指摘 (意見・指摘)																																																												
・科学研究費補助金等の外部資金への申請率を高め、申請・採択件数の増加を図る。【No.48】 〈評価指標〉 科学研究費補助金の教員の申請率：30%／第3期最終年度【No.48-1】 外部資金（科研費等）の獲得件数：過去3年平均以上（国財団助成含む）／毎年【No.48-2】 外部資金（科研費等）の獲得金額：過去3年平均以上（国財団助成含む）／毎年【No.48-3】※困難指標 48-1 科学研究費補助金の教員の申請率 <table><tr><th>年度</th><th>目標値</th><th>実績値</th><th>達成状況</th></tr><tr><td>R4</td><td>25%</td><td>28.4%</td><td>○ (○)</td></tr><tr><td>R5</td><td>26%</td><td>26.6%</td><td>○ (○)</td></tr><tr><td>R6</td><td>27%</td><td>20.8%</td><td>× (●)</td></tr><tr><td>R7</td><td>28%</td><td>27.8%</td><td>× (●)</td></tr></table> 48-2 外部資金（科研費等）の獲得件数 <table><tr><th>年度</th><th>目標値</th><th>実績値</th><th>達成状況</th></tr><tr><td>R4</td><td>53件</td><td>52件</td><td>× (●)</td></tr><tr><td>R5</td><td>54件</td><td>61件</td><td>○ (○)</td></tr><tr><td>R6</td><td>54件</td><td>65件</td><td>○ (○)</td></tr><tr><td>R7</td><td>59件</td><td>45件</td><td>× (●)</td></tr></table> 48-3 外部資金（科研費等）の獲得金額(困難指標) <table><tr><th>年度</th><th>目標値</th><th>実績値</th><th>達成状況</th></tr><tr><td>R4</td><td>31,067千円</td><td>36,346千円</td><td>○ (◎)</td></tr><tr><td>R5</td><td>32,625千円</td><td>47,772千円</td><td>○ (◎)</td></tr><tr><td>R6</td><td>36,625千円</td><td>39,278千円</td><td>○ (◎)</td></tr><tr><td>R7</td><td>41,132千円</td><td>31,204千円</td><td>× (●)</td></tr></table>	年度	目標値	実績値	達成状況	R4	25%	28.4%	○ (○)	R5	26%	26.6%	○ (○)	R6	27%	20.8%	× (●)	R7	28%	27.8%	× (●)	年度	目標値	実績値	達成状況	R4	53件	52件	× (●)	R5	54件	61件	○ (○)	R6	54件	65件	○ (○)	R7	59件	45件	× (●)	年度	目標値	実績値	達成状況	R4	31,067千円	36,346千円	○ (◎)	R5	32,625千円	47,772千円	○ (◎)	R6	36,625千円	39,278千円	○ (◎)	R7	41,132千円	31,204千円	× (●)	・科学研究費補助金をはじめとする外部資金への申請率向上および申請・採択件数の増加を重要課題と位置付け、研究支援体制の強化と申請環境の整備に取り組んだ。 ・科研費等の外部資金については、情報提供の充実を図り、年度当初及び受付開始前に事務局が教授会で説明し、教員に対し申請スケジュールの共有を徹底した。また、競争的資金申請支援コンサル会社による Web 個別面談、オンデマンド動画視聴による研究計画書作成支援などにより、申請に向けた意識の醸成を図った。 ・学内の教員特別研究費のうち、「重点研究」は「科学研究費補助金等の外部資金申請につながる研究であること」を推奨しており、「先進的研究」についてはこのことを条件としている。 ・科学研究費補助金に申請し不採択となった研究のうち、優れたものに対しては、次年度の募集に再度申請することを条件に研究費の助成を行っている。	A	B	科研費等の外部資金獲得に向け、各種申請支援や学内研究費助成の工夫などの取組が行われているものの、令和7年度においては、申請率、獲得件数、獲得金額のいずれも目標未達成であることから、左記評価とする。原因を分析し、改善に向けより一層の取組を推進されたい。
年度	目標値	実績値	達成状況																																																													
R4	25%	28.4%	○ (○)																																																													
R5	26%	26.6%	○ (○)																																																													
R6	27%	20.8%	× (●)																																																													
R7	28%	27.8%	× (●)																																																													
年度	目標値	実績値	達成状況																																																													
R4	53件	52件	× (●)																																																													
R5	54件	61件	○ (○)																																																													
R6	54件	65件	○ (○)																																																													
R7	59件	45件	× (●)																																																													
年度	目標値	実績値	達成状況																																																													
R4	31,067千円	36,346千円	○ (◎)																																																													
R5	32,625千円	47,772千円	○ (◎)																																																													
R6	36,625千円	39,278千円	○ (◎)																																																													
R7	41,132千円	31,204千円	× (●)																																																													

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目（公立大学法人静岡文化芸術大学 第3期中期目標期間見込み評価）

中期計画	計画の実施状況等	自己評価	検証	特記事項指摘 (意見・指摘)																				
・自治体等の審議会・委員会への教員の参画を通して、政策形成や地域の人材育成を支援する。【No.58】 〈評価指標〉 自治体等の委員、講師、審査員等への就任件数：過去3年平均以上／毎年 <table><tr><th>年度</th><th>目標値</th><th>実績値</th><th>達成状況</th></tr><tr><td>R4</td><td>－</td><td>402人（参考値）</td><td>－</td></tr><tr><td>R5</td><td>－</td><td>455人（参考値）</td><td>－</td></tr><tr><td>R6</td><td>420人</td><td>425人</td><td>○（○）</td></tr><tr><td>R7</td><td>427人</td><td>389人</td><td>×（●）</td></tr></table>	年度	目標値	実績値	達成状況	R4	－	402人（参考値）	－	R5	－	455人（参考値）	－	R6	420人	425人	○（○）	R7	427人	389人	×（●）	・自治体等からの各種委員就任依頼への対応や、講師等の派遣を通じ、政策形成や地域人材育成を継続的に支援した。 ・R8年3月の「市長・学長等による意見交換会」（浜松市）に参加した。【No.53再掲】	A	B	自治体等の委員、講師、審査員等への就任件数及び静岡県が実施する各種事業への協力件数が減少傾向にあることから、計画を順調に実施しているとは認められないため、左記の評価とする。地域に根ざした公立大学として、県及び市町、地域の企業との連携を一層強化し、大学の知的資源を地域課題の解決や地域の人材育成に生かす取組を進められたい。 （自治体等の委員、講師、審査員等就任事例） ・静岡県文化政策審議会委員（横山学長兼理事長） ・浜松商工会議所顧問（横山学長兼理事長） ・島田市総合計画審議会委員（森副学長） ・浜松市教育文化奨励賞審査会審査委員（谷川副学長） ・浜松市音楽創造都市推進会議委員（梅田学部長、藤井学部長） ・富士市景観審議会委員（亀井教授） ・伊豆の国市文化財保護審議会委員（新妻准教授） （大型イベントへの参加事例） ・東アジア文化都市2023 ロゴマークのデザイン制作、企画展（ものづくり文化展）の実施 ・浜名湖花博2024 ロゴマーク・キャラクターのデザイン制作、企画展（デジタルミライ館）の出展、施設デザイン監修等
年度	目標値	実績値	達成状況																					
R4	－	402人（参考値）	－																					
R5	－	455人（参考値）	－																					
R6	420人	425人	○（○）																					
R7	427人	389人	×（●）																					
・静岡県が実施する各種事業に協力するとともに、政策形成及び各種施策の推進を支援する。【No.59】 〈評価指標〉 静岡県の実施する各種事業に協力した件数：過去3年平均以上／毎年 <table><tr><th>年度</th><th>目標値</th><th>実績値</th><th>達成状況</th></tr><tr><td>R4</td><td>－</td><td>69件（参考値）</td><td>－</td></tr><tr><td>R5</td><td>－</td><td>80件（参考値）</td><td>－</td></tr><tr><td>R6</td><td>80件</td><td>63件</td><td>×（●）</td></tr><tr><td>R7</td><td>71件</td><td>60件</td><td>×（●）</td></tr></table>	年度	目標値	実績値	達成状況	R4	－	69件（参考値）	－	R5	－	80件（参考値）	－	R6	80件	63件	×（●）	R7	71件	60件	×（●）	・静岡県の各種委員会委員への就任、講師の派遣、また受託事業等による大型イベントへの参加等を通じて政策形成や施策推進を支援した。			
年度	目標値	実績値	達成状況																					
R4	－	69件（参考値）	－																					
R5	－	80件（参考値）	－																					
R6	80件	63件	×（●）																					
R7	71件	60件	×（●）																					

				(静岡県が実施する各種事業への協力) ・「しずおか遺産」制度発足時にロゴマーク制作 ・各種イベントの実行委員等への就任 静岡国際オペラコンクール実行委員会委員 「東アジア文化都市 2023 静岡県」 実行委員会委員 浜名湖花博 20 周年記念事業コーディネーター 浜名湖花博 20 周年記念事業実行委員会委員 第 9 回世界お茶まつり実行委員会デザインアドバイザー ふじのくに芸術祭企画委員会委員 (県有施設の整備時におけるデザイン監修) ・農林技術研究所茶業研究センター ・工科短期大学校 ・静岡地区新特別支援学校 ・農林環境専門職大学 ・ふじのくに茶の都ミュージアム (受託事業等による静岡県の施策推進支援) ・「プラス〇（オー）の住まい」普及・啓発支援 ・静岡住まい方ビジョン(仮称)検討支援 ・外国にルーツをもつ子どもの実態・課題 把握調査
--	--	--	--	--

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目（公立大学法人静岡文化芸術大学 第3期中期目標期間見込み評価）

中期計画	計画の実施状況等	自己 評価	検証	特記事項指摘 (意見・指摘)
・国際交流センターを中心に、地域の特性を生かした多文化間の対話・交流を通して、全学的なグローバル教育を推進する。【No. 63】 〈評価指標〉 R7 年度：留学から帰国した本学学生と海外からの留学生の交流活動を各学期に実施する。地域の特性を生かしたグローバル教育を推進するため、国際交流センターと地域連携センター等の協働事業案を策定する。 R8 年度：R7 年度の活動に加え、複数のセンターが協働し、グローバル教育を推進する事業を実施する。 R9 年度：R8 年度に実施した事業の結果を検証した上で、第4期中期計画を見据えた全学的なグローバル教育推進体制を整備する。	・国際交流活動をより効率的に行うため、R6 年度に多文化・多言語教育研究センターを改組し国際交流センターを設置した。国際交流センター設置により、本学の国際交流活動の拡充や多文化理解を深めるための事業を支援し、グローバル教育を推進した。 ・R7 年度前期に、正規留学生と交換留学生の交流会を実施し、「茶道部」によるお茶会に参加した。後期に学長、国際交流センター長を含む歓迎会を実施した。 ・国際交流センターと地域連携センターが協働し、SUAC Brazil Dayにおいて移民パネル展を実施した。 ・国際交流センターと図書館・情報センターが協働し、SUAC Brazil Weekにおいてブラジル関連書籍を展示したり、本学学生の留学記や留学生の推薦図書について紹介したりした。 ・R8 年度以降のセンター協働事業について協議し案を策定した（R8 年度策定案：「フェアトレード大学 10 周年記念事業」の開催について）。	S	A	国際交流センターを中心とした各事業や多部門協働によるグローバル教育は、指標どおり着実に履行されており、所期の目標を達成しているが、現段階の実績においては「他大学の模範となるような突出した効果・効用」までは確認できないことから、計画を順調に実施している段階であると判断し、左記の評価とする。 （自己評価 S の理由） R4 年度から、毎年、多文化共生をテーマとした講演会やイベントを実施し、学生や地域住民との間で、多文化間の対話や交流の機会を創出した。その結果、日本人や学生だけでなく、地域に住む外国にルーツを持つ方々がイベントに参加し、大学における国際文化の発信ができていたため。 ・ R4 講演会「私の中にある日本の力とブラジルの力」（約 100 名参加）など（講演者：磐田市在住の格闘イベント RIZIN 王者） ・ R5 多文化フォーラム「多文化共生社会に向けて劇場は誰と何ができるのか？」（約 100 名参加）など（出演者：磐田市在住のラッパー／SPAC／可児市文化創造センター） ・ R6 講演会「モードのジャポニスム」（約 200 名参加）など（講演者：本学初代文化政策研究科長 深井晃子氏） ・ R7 イベント「SUAC Brazil Week」（延べ 650 名参加）など（協力団体：在浜松ブラジル総領事館／ムンド・デ・アレグリア学校／浜松市カポエイラ団体／浜松市ブラジルサンバ団体／ブラジル料理キッチンカー団体）

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目（公立大学法人静岡文化芸術大学 第3期中期目標期間見込み評価）

中期計画	計画の実施状況等	自己評価	検証	特記事項指摘 (意見・指摘)																																																												
・海外インターンシップの拡充等により、留学や研修の機会を増やすとともに、日本語学習支援や生活支援等の受入体制の充実により、外国人留学生を積極的に受け入れる。【No.66】 〈評価指標〉 受入れ留学生数：40人／毎年【No.66-1】※困難指標 派遣留学生数：長期留学 22人／毎年【No.66-2】 短期留学 50人／毎年（語学研修含む）【No.66-3】 66-1 受入れ留学生数（困難指標） <table><tr><th>年度</th><th>目標値</th><th>実績値</th><th>達成状況</th></tr><tr><td>R4</td><td>40人</td><td>31人</td><td>×（●）</td></tr><tr><td>R5</td><td>40人</td><td>39人</td><td>○（○）</td></tr><tr><td>R6</td><td>40人</td><td>33人</td><td>×（●）</td></tr><tr><td>R7</td><td>40人</td><td>20人</td><td>×（●）</td></tr></table> 66-2 派遣留学生数 <table><tr><th>年度</th><th>目標値</th><th>実績値</th><th>達成状況</th></tr><tr><td>R4</td><td>22人</td><td>37人</td><td>○（○）</td></tr><tr><td>R5</td><td>22人</td><td>44人</td><td>○（○）</td></tr><tr><td>R6</td><td>22人</td><td>31人</td><td>○（○）</td></tr><tr><td>R7</td><td>22人</td><td>29人</td><td>○（○）</td></tr></table> 66-3 短期留学 <table><tr><th>年度</th><th>目標値</th><th>実績値</th><th>達成状況</th></tr><tr><td>R4</td><td>50人</td><td>59人</td><td>○（○）</td></tr><tr><td>R5</td><td>50人</td><td>53人</td><td>○（○）</td></tr><tr><td>R6</td><td>50人</td><td>50人</td><td>○（○）</td></tr><tr><td>R7</td><td>50人</td><td>43人</td><td>×（●）</td></tr></table>	年度	目標値	実績値	達成状況	R4	40人	31人	×（●）	R5	40人	39人	○（○）	R6	40人	33人	×（●）	R7	40人	20人	×（●）	年度	目標値	実績値	達成状況	R4	22人	37人	○（○）	R5	22人	44人	○（○）	R6	22人	31人	○（○）	R7	22人	29人	○（○）	年度	目標値	実績値	達成状況	R4	50人	59人	○（○）	R5	50人	53人	○（○）	R6	50人	50人	○（○）	R7	50人	43人	×（●）	・R4年度から、留学や研修の機会を増やすため、語学研修補助やインターンシップ、デザインワークショップを実施した。 ・日本語のレポート作成の支援等を個別に行う支援員によるライティングサポートを実施し、日本語学習支援を行った。 ※R7実績値の内訳 学部留学生3人、研究科留学生6人、研究生4人、交換留学生7人 計20人 （上記ほか、12人をアメリカ AUBURN大学から交流受入） ※R7実績値の内訳 夏・秋出発12人、春出発6人、前年度からの継続11人 計29人 ※R7実績値の内訳 夏32人、春11人 計43人	A	B	派遣留学生や語学研修参加者に対する経済的支援、留学生に対する日本語学習支援の取組は評価できるが、受入れ留学生数並びに派遣留学生数及び短期留学生数は減少傾向にある。これには必ずしも大学に起因するものではない外部環境の変化や不測の事態の発生なども影響している可能性がある。しかし、減少傾向が続いている状況を踏まえ、計画を順調に実施しているとまでは言えないため、左記の評価とする。海外留学等を行う学生の増加や留学生の安定的な確保に向け、更なる対策を講じられたい。 ・語学研修補助：参加者に「SUAC 短期留学奨学金（R8年度以降「SUAC 短期派遣奨学金」に名称変更）」として3～5万円を給付 ・インターンシップ：（R5年度～）日本語教員養成課程の学生対象の海外日本語教育インターンシップを実施 ・デザインワークショップ： （R5年度）南伊豆町にて、本学学生とイズミル経済大学の学生による「ガストロノミーツーリズム」に関するワークショップを開催 （R6年度）トルコで開催されたイズミル経済大学との国際デザインワークショップに参加 ・出入国在留管理庁が外国人留学生の受入条件として「日本語能力試験2級（N2）以上」を定めたことにより、留学志願者が減少した。 ・大学院入試の改革により、内部進学者（日本人）が増加した。その結果留学生の合格者数が減少した。 ・アメリカの協定校へ3名派遣予定であったが、アメリカの留学生ビザの発行遅延により留学を断念する事態となった。
年度	目標値	実績値	達成状況																																																													
R4	40人	31人	×（●）																																																													
R5	40人	39人	○（○）																																																													
R6	40人	33人	×（●）																																																													
R7	40人	20人	×（●）																																																													
年度	目標値	実績値	達成状況																																																													
R4	22人	37人	○（○）																																																													
R5	22人	44人	○（○）																																																													
R6	22人	31人	○（○）																																																													
R7	22人	29人	○（○）																																																													
年度	目標値	実績値	達成状況																																																													
R4	50人	59人	○（○）																																																													
R5	50人	53人	○（○）																																																													
R6	50人	50人	○（○）																																																													
R7	50人	43人	×（●）																																																													

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目（公立大学法人静岡文化芸術大学 第3期中期目標期間見込み評価）

中期計画	計画の実施状況等	自己 評価	検証	特記事項指摘 (意見・指摘)																				
・デジタル技術の活用も含め、協定校等との共同研究、シンポジウム、ワークショップ、研究者間の交流を促進する。【No.67】 〈評価指標〉 海外の教育研究機関等との共同事業の実施：第3期累計20件 ※困難指標 <table><tr><td>年度</td><td>目標値</td><td>実績値</td><td>達成状況</td></tr><tr><td>R4</td><td>3～4件</td><td>4件</td><td>○ (◎)</td></tr><tr><td>R5</td><td>3～4件</td><td>4件</td><td>○ (◎)</td></tr><tr><td>R6</td><td>3～4件</td><td>3件</td><td>○ (◎)</td></tr><tr><td>R7</td><td>3～4件</td><td>9件</td><td>○ (◎)</td></tr></table>	年度	目標値	実績値	達成状況	R4	3～4件	4件	○ (◎)	R5	3～4件	4件	○ (◎)	R6	3～4件	3件	○ (◎)	R7	3～4件	9件	○ (◎)	・協定校との交流を、実地に加えオンラインも活用して推進した。 ・R7年度は、協定校との交流に加え、イタリアの美術大学主催のシンポジウム（於：大阪・関西万博イタリア館）への教職員の参加、学生のEU短期留学プログラム奨学金獲得、複数の海外大学からの連携に関する打診・訪問があった。	A	S	協定校との交流を、実地に加えオンラインも活用して推進しており、評価指標（困難）である海外の教育研究機関等との共同事業の実施件数は、令和4年度から令和7年度までで、累計20件となった。中期目標期間を通じた目標値を達成しており、その達成度は現時点で100%を超えている。については、計画を上回って実施しているといえるため、左記評価とする。 (R7 代表事例) ・ドイツ・キール大学教員本学訪問および本学教員の客員研究員任命 ・米国・カリフォルニア州シリコンバレー国際交流団体とのオンライン面談 ・オーストラリア・サザンクロス大学国際交流担当本学訪問 ・米国・オーバーン大学学生と教員本学訪問 ・イタリア・ポリアルテ美術デザイン大学教員本学訪問 ・サンマリノ共和国大学国際交流担当本学訪問
年度	目標値	実績値	達成状況																					
R4	3～4件	4件	○ (◎)																					
R5	3～4件	4件	○ (◎)																					
R6	3～4件	3件	○ (◎)																					
R7	3～4件	9件	○ (◎)																					

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目（公立大学法人静岡文化芸術大学 第3期中期目標期間見込み評価）

中期計画	計画の実施状況等	自己 評価	検証	特記事項指摘 (意見・指摘)																				
・学生及び教職員の安全確保と健康保持のため、労働安全衛生法に基づく安全衛生管理を適正に実施する。【No.86】 〈評価指標〉 学生定期健康診断受診率：第2期中期目標期間の水準を確保 <table><tr><td>年度</td><td>目標値</td><td>実績値</td><td>達成状況</td></tr><tr><td>R4</td><td>－</td><td>95％（参考値）</td><td>－</td></tr><tr><td>R5</td><td>－</td><td>96％（参考値）</td><td>－</td></tr><tr><td>R6</td><td>94％</td><td>94％</td><td>○（○）</td></tr><tr><td>R7</td><td>94％</td><td>93％</td><td>×（●）</td></tr></table>	年度	目標値	実績値	達成状況	R4	－	95％（参考値）	－	R5	－	96％（参考値）	－	R6	94％	94％	○（○）	R7	94％	93％	×（●）	・学生の心身の健康保持のため、毎年健康診断を実施するほか、健康調査票により学生の既往歴を把握し、保健室と教務・学生室にて共有した。 ・教職員については、毎年ストレスチェックを行い、必要に応じて産業医や所属長による面談等を実施するとともに、健康管理意識の醸成のため、健康管理に関する講演会を毎年テーマを変えて開催した。 ・学内の安全衛生管理については、衛生委員会を毎月開催し、現状を共有し諸課題を協議するとともに、産業医及び衛生管理者による職場巡視を定期的に実施するなど安全で衛生的な職場環境の維持に努めた。	A	B	学生定期健康診断を毎年実施するとともに、健康調査票により学生の既往歴を把握し、保健室と教務・学生室で情報を共有するなど、学生の心身の健康保持に取り組んでいる。一方で、学生定期健康診断の受診率は減少傾向にあり、令和7年度は目標値を達成しておらず、計画を順調に実施しているとは認められないため、左記の評価とする。引き続き、学生定期健康診断の受診率向上に取り組まれない。
年度	目標値	実績値	達成状況																					
R4	－	95％（参考値）	－																					
R5	－	96％（参考値）	－																					
R6	94％	94％	○（○）																					
R7	94％	93％	×（●）																					

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目（公立大学法人静岡文化芸術大学 第3期中期目標期間見込み評価）

中期計画	計画の実施状況等	自己 評価	検証	特記事項指摘 （意見・指摘）																																								
・ハラスメント防止指針に基づき、効果的な啓発指導や研修を行い、学生・教職員の人権意識の向上や、相談体制の充実強化を図り、本学におけるハラスメントの根絶を目指す。 ・ハラスメント事案が発生した場合には、迅速に被害者救済を行うとともに、修学・就労環境の改善等の措置を行う。【No.91】 〈評価指標〉 ハラスメント事案新規発生件数（ハラスメント調査委員会での認定件数）ゼロ／毎年【No.91-1】 教職員対象ハラスメント防止研修の受講率：100％／毎年【No.91-2】 91-1 ハラスメント事案新規発生件数（ハラスメント調査委員会での認定件数）ゼロ／毎年 <table><tr><th>年度</th><th>目標値</th><th>実績値</th><th>達成状況</th></tr><tr><td>R4</td><td>—</td><td>1件(参考値)</td><td>—</td></tr><tr><td>R5</td><td>—</td><td>ゼロ(参考値)</td><td>—</td></tr><tr><td>R6</td><td>ゼロ</td><td>1件</td><td>×(●)</td></tr><tr><td>R7</td><td>ゼロ</td><td>ゼロ</td><td>○(○)</td></tr></table> 91-2 教職員対象ハラスメント防止研修の受講率：100％／毎年 <table><tr><th>年度</th><th>目標値</th><th>実績値</th><th>達成状況</th></tr><tr><td>R4</td><td>—</td><td>100%(参考値)</td><td>—</td></tr><tr><td>R5</td><td>—</td><td>96%(参考値)</td><td>—</td></tr><tr><td>R6</td><td>100%</td><td>100%</td><td>○(○)</td></tr><tr><td>R7</td><td>100%</td><td>100%</td><td>○(○)</td></tr></table>	年度	目標値	実績値	達成状況	R4	—	1件(参考値)	—	R5	—	ゼロ(参考値)	—	R6	ゼロ	1件	×(●)	R7	ゼロ	ゼロ	○(○)	年度	目標値	実績値	達成状況	R4	—	100%(参考値)	—	R5	—	96%(参考値)	—	R6	100%	100%	○(○)	R7	100%	100%	○(○)	・教職員を対象としたアンケートにより、ハラスメント被害やハラスメントの認知の状況等を調査するとともに、全教職員を対象にハラスメント防止研修を行った。 ・学生を対象としたハラスメントに関する意識調査（学生生活調査の一環）の結果を踏まえ、学生と教職員用の Web 相談フォームを設置し、被害者が相談しやすい環境を整えた。 ・ハラスメント事案が発生した場合は、当事者への聴き取り等により事案の把握を速やかに行うとともに、被害者の要望を踏まえた救済措置を速やかに取り、就労環境の改善を図った。	A	B	教職員を対象としたハラスメント防止研修の実施や、学生を対象としたハラスメントに関する意識調査（学生アンケートの一環）の結果を踏まえ、学生と教職員用の Web 相談フォームを設置し、被害者が相談しやすい環境を整えたことは評価できるが、期間中にハラスメント事案が複数回発生しており、計画を順調に実施しているとは認められないため、左記の評価とする。ハラスメントの根絶に向け、全学を挙げて取り組まれない。 ・ハラスメント防止研修のテーマ R4「ハラスメント防止セミナー～職場のハラスメントについて考える～」 R5「アカデミックハラスメントを考える」 R6「無意識の思い込み（アンコンシャスバイアス）に気づくための心理学」 R7「アカデミックハラスメントを予防するための見方・考え方」
年度	目標値	実績値	達成状況																																									
R4	—	1件(参考値)	—																																									
R5	—	ゼロ(参考値)	—																																									
R6	ゼロ	1件	×(●)																																									
R7	ゼロ	ゼロ	○(○)																																									
年度	目標値	実績値	達成状況																																									
R4	—	100%(参考値)	—																																									
R5	—	96%(参考値)	—																																									
R6	100%	100%	○(○)																																									
R7	100%	100%	○(○)																																									

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目（公立大学法人静岡文化芸術大学 第3期中期目標期間見込み評価）

評価に当たっての意見がある項目（2項目）

中期計画	計画の実施状況等	自己 評価	検証	特記事項指摘 (意見・指摘)																				
・理事長兼学長のガバナンス機能の強化を図り、迅速な意思決定のもと、サービスの受け手の満足度向上を目指して業務運営の改善に取り組む。【No.68】 〈評価指標〉 役員会・経営審議会において、学外委員から出た法人経営に関する意見への対応または回答する率：100％／毎年 <table><tr><th>年度</th><th>目標値</th><th>実績値</th><th>達成状況</th></tr><tr><td>R4</td><td>－</td><td>100％（参考値）</td><td>－</td></tr><tr><td>R5</td><td>－</td><td>100％（参考値）</td><td>－</td></tr><tr><td>R6</td><td>100％</td><td>100％</td><td>○（○）</td></tr><tr><td>R7</td><td>100％</td><td>100％</td><td>○（○）</td></tr></table>	年度	目標値	実績値	達成状況	R4	－	100％（参考値）	－	R5	－	100％（参考値）	－	R6	100％	100％	○（○）	R7	100％	100％	○（○）	・R4 年度に理事長と学長の一体化を実施し、それにより法人運営と大学運営の円滑な意思決定が可能となった。 ・法人の代表者を議長とする役員会を原則毎月開催し、経営審議会を毎年度4 回程度開催し、法人経営及び大学運営に係る重要事項を審議、決定した。学長を議長とする教育研究審議会も原則毎月開催し、教育研究に係る重要事項を審議した。各会議において、外部委員の意見を取り入れている。	A	A	理事長兼学長の下で一体的な法人経営及び大学運営が行われている。一方、意思決定の透明性及び業務執行に対する牽制機能を確保する観点から、役員会、経営審議会、教育研究審議会及び監事がそれぞれの役割を十分に果たし、実効性のあるガバナンス体制が確保されるよう、継続的な点検及び必要な見直しに努められたい。 加えて、少子化や地域人口の減少など、高等教育を取り巻く環境が大きく変化する中、将来にわたり持続可能な法人経営及び大学運営を実現するため、大学の特色や強みを生かした将来像について検討を深めることが求められる。その際には、大学の特色を一層発揮できる教育研究体制の構築に加え、他の高等教育機関、地方公共団体、地域の企業・団体等との連携の在り方についても幅広く検討されたい。
年度	目標値	実績値	達成状況																					
R4	－	100％（参考値）	－																					
R5	－	100％（参考値）	－																					
R6	100％	100％	○（○）																					
R7	100％	100％	○（○）																					

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目（公立大学法人静岡文化芸術大学 第3期中期目標期間見込み評価）

中期計画	計画の実施状況等	自己 評価	検証	特記事項指摘 (意見・指摘)																																								
・知名度向上と本学が求める学生の確保に向けて、媒体の性質及び訴求対象を踏まえた戦略的な広報を国内外に向けて行う。 ・教職員の自学に関する理解を促進し、教職員一人ひとりが様々な機会に応じて全学的な広報を行う。【No.85】 〈評価指標〉 市記者クラブへの情報提供（プレスリリース）の件数：33 件以上／毎年【No.85-1】 公式 SNS（X）のポスト投稿件数：300 件以上／毎年⁵【No.85-2】 <table><tr><th>年度</th><th>目標値</th><th>実績値</th><th>達成状況</th></tr><tr><td>R4</td><td>－</td><td>41件（参考値）</td><td>－</td></tr><tr><td>R5</td><td>－</td><td>25件（参考値）</td><td>－</td></tr><tr><td>R6</td><td>33件</td><td>31件</td><td>×（●）</td></tr><tr><td>R7</td><td>33件</td><td>36件</td><td>○（○）</td></tr></table> 85-2 <table><tr><th>年度</th><th>目標値</th><th>実績値</th><th>達成状況</th></tr><tr><td>R4</td><td>－</td><td>392件（参考値）</td><td>－</td></tr><tr><td>R5</td><td>－</td><td>158件（参考値）</td><td>－</td></tr><tr><td>R6</td><td>300件</td><td>311件</td><td>○（○）</td></tr><tr><td>R7</td><td>300件</td><td>352件</td><td>○（○）</td></tr></table>	年度	目標値	実績値	達成状況	R4	－	41件（参考値）	－	R5	－	25件（参考値）	－	R6	33件	31件	×（●）	R7	33件	36件	○（○）	年度	目標値	実績値	達成状況	R4	－	392件（参考値）	－	R5	－	158件（参考値）	－	R6	300件	311件	○（○）	R7	300件	352件	○（○）	・受験生・保護者・企業等、学外ステークホルダーの対象別に、大学公式 HP、広報冊子、SNS、プレスリリース等の媒体を適切に使い分け、本学の教育研究の特色や魅力を効果的に発信した。 ・R4 年度に大学公式映像をリニューアルし、大学概要紹介映像（10 分版）と大学イメージ映像（3 分版）を制作し、大学公式 HP 及び公式 YouTube チャンネルにて公開した。 ・広報誌「碧い風」（R6 まで年 2 回、R7 からは年 1 回）を発行し、本学の特徴的な教育研究活動や学生の活動を発信した。 ・大学公式 SNS を活用して、学生達の活動の様子やイベント情報を発信し、フォロワー数は増加している。なお、X（旧 Twitter）に加え、R7 年度からInstagramの公式アカウントを開設し、ターゲット層を意識した情報発信を行っている。R8 年度からは Facebook を開設する。 ・プレスリリースを積極的に行い、教育研究の成果や学生の活躍、学内イベント・展示等について、新聞等のメディアに多く取り上げられた。 ・教職員の自学に関する理解を促進するツールとして「SUAC 理解基礎データ集」を毎年度作成し、教職員に配付（R7 よりデータ配付）し、大学公式 HP にも掲載した。R5 年度からは、新規採用教職員に対して、同データ集を教材とした自学理解を深めるための研修を毎年行った。【No. 84 再掲】	A	A	受験生、卒業生、企業、地方公共団体等のステークホルダーをはじめ、広く県民に対しても、それぞれの関心や立場に応じて大学の教育研究や地域貢献の取組を効果的に伝え、大学の役割や特色への理解と共感が得られるよう取り組まれたい。 ・X（旧 Twitter）投稿件数 R4：392 件 R5：158 件 R6：311 件 R7：352 件 ・Instagram 投稿件数 （R7 年 4 月開設）R7：226 件 ・SNS フォロワー数の増加状況 X フォロワー数 R4 年 3 月：1,503 R5 年 3 月：2,036 R6 年 3 月：2,411 R7 年 3 月：2,882 R8 年 3 月：2,958 ・Instagram フォロワー数 R7 年 4 月：開設（0） R8 年 3 月：902
年度	目標値	実績値	達成状況																																									
R4	－	41件（参考値）	－																																									
R5	－	25件（参考値）	－																																									
R6	33件	31件	×（●）																																									
R7	33件	36件	○（○）																																									
年度	目標値	実績値	達成状況																																									
R4	－	392件（参考値）	－																																									
R5	－	158件（参考値）	－																																									
R6	300件	311件	○（○）																																									
R7	300件	352件	○（○）																																									

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目（公立大学法人静岡文化芸術大学 第3期中期目標期間見込み評価）

改善を要する項目（1項目）

中期計画	計画の実施状況等	自己 評価	検証	特記事項指摘 （意見・指摘）																				
・地域の企業、自治体等との共同研究、受託研究、受託事業の受入れを推進するとともに、特色ある研究を強化し、その成果を地域に還元する。【No.46】 〈評価指標〉 受託事業、受託研究、共同研究の受入件数：過去3年平均以上／毎年 <table><tr><td>年度</td><td>目標値</td><td>実績値</td><td>達成状況</td></tr><tr><td>R4</td><td>16件</td><td>20件</td><td>○（○）</td></tr><tr><td>R5</td><td>15件</td><td>15件</td><td>○（○）</td></tr><tr><td>R6</td><td>16件</td><td>12件</td><td>×（●）</td></tr><tr><td>R7</td><td>16件</td><td>8件</td><td>×（●）</td></tr></table>	年度	目標値	実績値	達成状況	R4	16件	20件	○（○）	R5	15件	15件	○（○）	R6	16件	12件	×（●）	R7	16件	8件	×（●）	・共同研究等の受入件数は年々減少し、直近2年間は過去3年の平均を下回り、数値目標を達成できなかった。静岡県からの受入件数の減少が主な要因と考えられる。 ・今後は静岡県からの委託に加え、民間を含めた新規案件の獲得を進めるため、大学公式 HP 等を活用し研究成果を広く周知する。	B	B	共同研究等の受入件数は中期目標期間を通じて減少している。民間企業等との連携を含む新規案件の獲得のため、原因分析を十分に行った上で、改善に向けより一層の取組を推進されたい。 （自己評価Bの理由） 設定した数値目標について、1～2年目は達成できたものの、3～4年目は達成できなかったため。
年度	目標値	実績値	達成状況																					
R4	16件	20件	○（○）																					
R5	15件	15件	○（○）																					
R6	16件	12件	×（●）																					
R7	16件	8件	×（●）																					